



● 城東地区 ●
 1936 世帯
 男 1753 人
 女 1863 人
 合計 3616 人
 R3.9.1 現在

地区講座
 歴史講座
**松本城主
 石川氏**

七月二十八日(水)、城東公民館にて「松本城主 石川氏」と題して城東地区歴史講座が開催されました。松本城の築城主でもある石川数正・康長親子に焦点を当てた講座で参加者は二十名弱、講師は

前松本城管理事務所員の後藤芳孝先生でした。今回は講座で学んだことを踏まえて、皆さんに石川氏の歴史をお伝えしたいと思います。

まず石川数正は、徳川家康が駿河国の大名今川義元の人質になっていた時代から近侍として仕えていましたが、一五八六年突如として家康の下から出奔し、豊臣秀吉の下へ逃亡しました。秀吉からは当初八万石が与えられました



水面に映る逆さ松本城 (撮影：佐藤 敬氏)

再び家康に加勢して会津征伐に従い、また徳川秀忠軍に従って上田合戦に参戦(康勝は西軍として夏の陣で討死)したため、その所領は徳川家によって保証されませんでした。その後江戸幕府の勘定奉行、大久保長安の息子に娘を嫁がせましたが、長安の死後に生前の不正蓄財が問わ

が、のちに信濃松本十万石に増移封され築城(松本城)に当たりました。

しかし数正は文禄の役で出兵中に死去、秀吉の命により父(数正)の遺した十万石のうち長男の康長は八万石を相続し、残りの二万石は二人の弟康勝、康次に分け与えられました。

康長は父の代より続く松本城の建築を(月見櫓を除き)更に進め、天守の建築に着手しましたが、その規模は八万石の分限を超えていたため、当時の百姓たちは苦勞したようです。

関ヶ原の戦い(一六〇〇年)では康長・康次は東軍として

れ大久保家七人が切腹となり、また縁戚関係の康長・康次も改易となりました。

またこの時、康次の三男晶光は、戦で負傷し歩行困難の身となった事で小口楽斎と改名、松本の奥座敷、浅間温泉に佇む伝統の湯「湯々庵枇杷の湯」を整備し、松本城主湯殿として四百年の歴史を持つ温泉を先祖代々守っているそうです。

石川家の松本統治、改易については松本藩主水野忠幹の命によって編纂され、一七二四年に完成した『信府統記』に詳しく記載されているとのこと。

また講座当日の質疑応答では、「城東地区を流れる一級河川女鳥羽川は、途中急に西に向かつて流路がカーブしているが、誰が流れを変えたか」と質問がありました。川辺文書「松本記」は次のように記しているとのこと。

流路を変更した時期について、小笠原氏以前武田信玄統治の間に成されたと考えられるようになっていたそうです。が、後藤先生が後日再度調査されるとのこと。

ところで、女鳥羽川は江戸時代の初め頃までは「御堂田(めとうだ)川」と呼ばれ



熱心に耳を傾ける参加者

ていたそうです。一六六九年に松本城主水野忠直が玄向寺の裏山に父の廟所を造った際、その横にある御堂田川に通じる小川の上流に三つの滝を造り(現在も一部残っています)、この滝を京都の清水寺の山中から湧き出る音羽の滝になぞらえて「女鳥羽の滝」としたことがその謂れだそうです。

今回の聴講者の中には観光ボランティア活動のメンバーが数人含まれていて、内容としてはかなり高度な講座と感じましたが、天守を造った城主としての石川氏の偉業、ひいては松本城そのものの魅力を広めたいという後藤先生の想いが感じられる内容であったと思います。(矢島)

元町南区町会の町会だよりについて

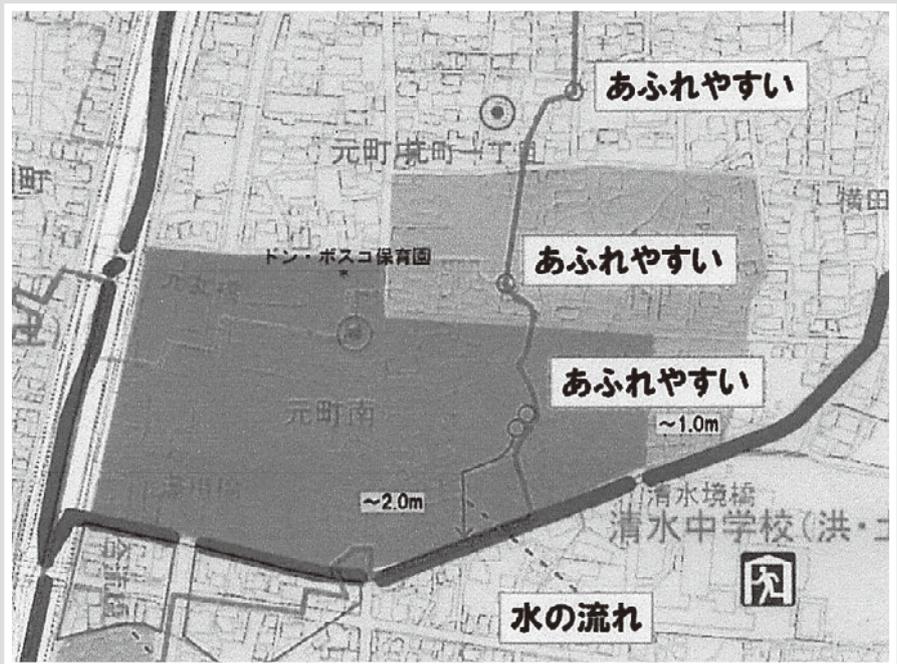
元町南区では、他町会のお便りを参考に、平成二十六年(2014年)から毎月町会だよりをカラーで発行し、全戸配布しています。編集は三役会からお便り編集委員会(ボランティア組織)に代わりました。内容は、前月の行事報告と今月の予定が中心です。今回は、町会だよりから防災に関する記事を紹介します。

(岸川)



お役立ち情報満載の町会だより

元町南区の浸水予想 (松本市ハザードマップ・城東地区)



城東地区ハザードマップ (元町南区周辺)

令和二年九月号より

元町南区の浸水予想は、全域二メートル以上です。氾濫箇所は湯川の支流で、アトラエンテ・ハープ桐・金井さん宅の東側の側溝です。金井さんのお話では、令和二年七月八日(水)の大雨特別警報時はすごい流れだったとのこと。今までの氾濫は女鳥羽川上流と想像していたのでびっくりです。

豆知識

一〇月一〇日は『銭湯の日』。一九六四年日本で初めてのオリンピックが首都東京に選ばれ開催日に因んで当時の銭湯協会が名付けたそうです。また三十日は『卵かけごはんの日』として認定されています。

います。これは島根県雲南市にある「日本卵かけごはんシンポジウム実行委員会」という委員会が、第一回のシンポジウムを行った日を記念して制定したそうです。

(矢島)

ご存知ですか?



元町北公民館東側には「道祖神」がありますが、この道祖神は実はものすごいもので、紀年銘が刻まれている文字碑としては旧市内で最も古いもので、祀られたのは寛文13年(1673年)と、今日まで348年の歴史を刻んでいます。当町会の道祖神は人型が彫られた石像ではなく、「石碑」の形態で祀られており、厄災の侵入防止や子孫繁栄等を祈願するために村の守り神とされています。

(下山)